

1歳までのお子さんにはちみつを食べさせないで！

～乳児ボツリヌス症を防ぐために～

ボツリヌス菌は土など自然界に存在する菌です。はちみつはボツリヌス菌の芽胞を含んでいる可能性のある食品です。

「芽胞」とは、一部の細菌が、増殖に適さない環境下で熱や乾燥に強い抵抗性を持った状態をいい、100度で長時間加熱しても、死滅させることができません。

食品中にボツリヌス菌があったとしても、1歳以上の人の腸内では菌は増えないのですが、1歳未満の乳児の腸では、芽胞からボツリヌス菌が増え、菌が出す毒素によって乳児ボツリヌス症をおこすおそれがあります。

乳児ボツリヌス症の症状は、便秘で始まることがほとんどです。

便秘が数日続いた後、全身の筋力が低下し、おっぱいを吸う力が弱くなったり、泣き声が小さくなったり、首が座らなくなったりします。

重症化すると呼吸困難になり、死亡することもあります。これらは筋肉を弛緩させる（収縮できなくする）ボツリヌス毒素によって引き起こされます。

乳児ボツリヌス症は1976年にアメリカで初めて報告され、日本では1986年に最初の症例が報告されました。はちみつが原因となることが多かったため、1987年10月、当時の厚生省が「1歳未満の児にはちみつを与えないように」との通知を出しました。

乳児ボツリヌス症には特効薬やワクチンがないため、予防が大切です。

1歳未満の乳児には、はちみつを与えないように注意しましょう。

なお、1歳以上の方は、はちみつを食べてもボツリヌス症をおこすおそれはありません。

<お問い合わせ先>

島根県健康福祉部健康推進課

TEL：0852-22-6130 FAX：0852-22-6328

〒690-8501 松江市殿町1番地